

防災対策の推進は

問 浸水対策スケジュールは。

答 福山市域における浸水対策協議会で取りまとめた行程表に基づき、国、県、市等が連携して2023年度の完成をめざし集中的に取り組んでいる。

瀬戸川流域では、県は瀬戸川の河川改修を加速し、福川の排水機場の工事に着手する。また、手城川流域では、県は中流域と下流域の河川改修を加速するとともに、2022年度を目途に排水機場へ

ポンプを増設し、本市は出水期までに雨水貯留施設を整備するほか内水排除対策として雨水幹線とポンプ場整備の詳細設計を実施し、順次工事に着手する。その他の流域では、県は2021年度までに天王前川のポンプを増設し、本市は2020年度から沼隈町をはじめ草戸町、駅家町、神辺町、新市町、南今津町、神村町などで排水

機の整備を順次実施する。引き続き、国、県、市等が連携して行程表に基づく着実な進捗を図り、頻発する自然災害への備えを強化していく。

問 子ども科学館の建設は。

答 福山駅周辺への科学館機能の整備は備後圏域の産業の発展の

子ども科学館建設の取り組みは

ためにも大変意義あるもので、今後、科学館を設置している他の自治体の事例を調査し、2020年度から県と定期的な勉強会をスタートさせたい。

エフピコR1Mの再生は

問 ①再生のスケジュールは。

②建物内の公共施設の移転は。
③スピード再生後に公共施設を戻す考えは。

答 ①現在の駅前再生の流れ等から、路面階である1階部分の活

用を想定し、1～2年の短期間で再生ができる閉鎖リノベーション案が現時点では望ましい。並行して、社会経済情勢等を踏まえながら中長期的な在り方の検討を行う。②8月30日の商業施設の営業終了後、可能な限り速やかに移転する。③当面公共施設は配置せず、民間によるスタートとする考えである。

福山駅前の再生は

問 ①駅前再生のための「福山駅周辺デザイン計画」の策定スケジュールは。

②駅前広場の機能について、現状をどう評価しているか。
③旧キャスパ等の解体後の計画は。

答 ①デザイン会議や議会での議論、現在実施しているパブリックコメントの意見を踏まえ、今年3月末までに策定し、公表する。
②現在の駅前広場は、交通結節点

機能の強化を主な目的として整備され、公共交通の利用者の利便性向上に効果が得られていると考える。現在策定中のデザイン計画では、駅前を「人を中心とした居心地が良く、歩いて楽しい空間」へ転換していくことをめざしている。
③旧キャスパ等跡地の施設計画は駅前を訪れた人々が憩える公園のような空間や、駅前から西側へと人々をいざなう歩行空間等が計画されている。2021年2月の解体工事完了後、速やかに建築工事に着手し、2023年度に完成する予定となっている。

公明党



宮地 徹三

2020年度予算は

問 市長の思いと基本姿勢は。

また、総合的な財源確保の取り組みは。

答 これまで「実行、加速、深化」とつないできた取り組みの集大成であり、本市のさらなる飛躍

に向けた新たなスタートにしたいという思いを込めて、「頻発する自然災害への備え」など3つの備えを充実した。
今後も持続可能で強靱な財政基盤の構築が不可欠であり、行政事務のスマート化、既存財産を活用した収入の拡大、民間活力を用いた公共サービスの再構築の3つの視点で総合的な財源確保に取り組み、2020年度は約19億円の効果を生み出すことができた。中期的には、2024年度までの5年間で約87億円を目標額として取り組みを強化する。